

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」阪急茨木校			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日		～	2025年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日		～	2025年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 27日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされています。	保護者のニーズと子供との成長度合いに応じて児童発達支援計画の作成を行っています。今後の成長なども加味しながら支援の幅を利かせられるように支援目標も柔軟にさせていただいています。	保護者が思っていることと指導員が思っていることを児童発達支援計画に反映できていないところもあるため、保護者がどう思っているのかという部分を指導員と話し合う機会を多くしていきます。指導員が思っていることを保護者につたわるように話し合う機会を増やしていきます。
2	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われています。	お困りごとがあれば時間を作り話しができるように心がけています。振り返りの時間も設けており、そこで日常の相談ごとができるようにしています。	質問に対してもっと具体的に助言ができるように外部研修など色々な機会に職員全員が出向き、知識を蓄え、答えるようにしていきます。
3	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がされています。	保護者が納得していただけるように、聞きたいと思えるところに時間を作り、説明を終えるたびに疑問点がないかをお聞きしています。また、多くお金をいただくときには必ず説明をさせていただいています。	支援プログラムのところで疑問に思われるところが多いため、指導員にその声があったときの共有と、時間をあまりおらずにお答えできるようにこちらからお声がけしていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	1回の療育の時間が短いため、慌ただしく感じさせてしまう場面があります。	1時間ごとの入れ替えの際に事業所内のスペースがうまく使えていないや、子供達の動きを職員全員が理解していないと思います。予想外の動きをした時に慌てた態度を見せてしまっていると思います。	職員全員でのコミュニケーションを図っていき、声で指示ができるように行っています。臨機応変な動きができるように職員全員が想定して動くレベルを上げられるように話し合っています。
2	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありません。	外部での交流よりも事業所内での交流を大事にしています。そのため、イベントなどを行い、他の子との関わる機会を作っています。	個別支援のため、他の子との交流が少ないように感じさせてしまうこともありますので、イベントや振り返りなどで他児との交流ができる機会を増やせないか話し合っています。
3	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われているか周知しきれていないです。	1年に数回行っていますが、ブログなどで公開していないや、参加していただく保護者にしか連絡をしていないため、全員が周知していることが少ないと感じています。	公式LINEなどでこの日に防災訓練を行いますや行いましたなどを周知できるように行っています。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」阪急茨木校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 21

回収数 21

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	20	1	0	0	特にありません。	特にご指摘いただくことがなくよかったです。今後はより良い意見をいただけますように精進していきます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19	1	0	1	ゲーム遊びをするときは人数を増やすと子供達も楽しめると思います。	個別での療育のため人数が増わないやニーズが違う方もおられます。だが、個別療育にとらわれずに複数名での取り組みもできるように検討していきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	18	1	0	2	バーテーションのみで仕切られている場合もあります。個室の場合は問題ないと思います。	メインの支援室に関してはバーテーションでの物理的区切ることになってしまっています。違う形での方法も検討していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18	3	0	0	他を知らないので、よくわかりません。	他のところと今後比べていただいても、清潔で、心地よく過ごしていただけるように日々心掛けていきます。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1	4	0	1	もう少しSSTを増やしても良いかもしれません。	ニーズや要望によって支援のメニューを変更していきますので、振り返りなどで管理者や指導員にお伝えください。対応していきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17	0	0	4		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	20	1	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19	1	0	1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19	2	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13	5	0	3		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	5	3	8	5		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15	4	2	0		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	20	1	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	0	0	0	毎回の支援でヒアリングしてくださっています。	毎回振り返りをさせていただいていますので、今後も継続していき、色々なお悩みなどを聞きし対応できればと思います。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18	2	0	1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	6	0	4		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16	3	0	2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16	5	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7	2	1	11		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	17	1	0	3	支援後の面談が個室でないケースもあるため、他の指導の保護者の話が聞こえてしまうことがあります。	できるだけ、声の大きさの調整や防音対策を行っていき、プライバシーを守れるように配慮していきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	1	1	9		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	1	0	12		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12	1	0	8		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	1	0	9		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	20	1	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17	4	0	0	とても楽しみにしています。	ありがとうございます。今後とも楽しみにしていただけるように精進していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16	3	0	2	他の事業所と比べると、どちらかという と1回の時間が短いので、何とも慌ただしいです。	短い時間かつ利用者の増加により入れ替わりの時間帯など悩ましいところをお見せしてしまっています。悩ましい姿をお見せするのを極力減らしていくためにも時間配分など検討していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」阪急茨木校		2025 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		子供に合わせて広さを合わせています。机があっても運動したり多くの支援教材を置いたりするスペースがあります。	支援室の数としては適切であるが、狭いところがあるなど、利用者によって割り当てを今後とも注意していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		児発管の業務のサポートできることを考慮すると十分余裕があります。1人職員が増えたため、少しずつ利用店員や子供の人数に対し適切になってきています。	適切ではあると感じる反面、事務所に職員1人だけの時があり、支援後に子供達と遊べない時もあります。機会を作るように努めていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		物理的に入れないようシートフェンスを設置したり、子供に分かりやすい環境にしたりしています。必要な子には個室での支援を行っています。	今後も子供達が分かりやすいように環境作りに徹していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		こまめに掃除や整理整頓を行っています。随時換気も行っている。	ゴミ捨てや掃除機などより気を配っていきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		静養室や相談室が整備されています。子供の特性や状況に合わせて使用しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		ミーティングや日々の会話を通して行っています。	ミーティングなどで人前で声を出していない職員に対して話をしやすい環境作りが必要です。努めていきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年事業所評価を書いていただき、内容を共有して業務改善に努めています。振り返りや面談などで、保護者様の話を聞く機会を設けています。	振り返りを行わない保護者や送迎で来られない保護者に対してどの様にコミュニケーションを図っていくのか検討が必要です。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		1on1の機会が設けられています。毎朝のミーティングや1on1などで意見し、業務改善に努めています。	自発的に職員からの要望が少なく、待ちになっていると思います。待ちにならないように促していきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		アンケートの実施や、相談事業所などからのご意見などをいただき、業務改善に努めています。	第3者として意見を出していただけたところが少ないです。意見には真摯に受け止め努めていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		社内や外部の研修に定期的に参加し、職員の資質向上を行っています。	研修に参加できなかった人が動画などを見て研鑽している姿が少ないと感じています。見逃したのであれば動画を見てもらえるように促していきます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		義務のためHPや保護者の振り返りの時などに公開しています。	指導員でどこに公開しているのか、そもそも公開しているのかわかっている職員とわかっていない職員がいるため、周知していけるように努めます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		定期的なアセスメントや日々の振り返りでニーズを確認し支援計画を作っています。保護者や子供の希望を聞いて目標を立てています。	職員によってアセスメントをとるだけになっていることもあります。意識していけるように促していきます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		管理者が指導員と話しながら作っていくことや日々の支援で情報を共有し共通理解ができています。支援のことで共有と一緒に考える時間を設けられています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		作成後はファイル保管やデジタル保管をし、常に計画を確認しながら支援を行う環境ができています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		紙でアセスメントを記入してもらうこともしつつ、日々の支援の振り返りで近況を聞き情報を共有しています。	子供の状況に合わせた行動を意識はしているが、状況に応じた対応ができないときもあり、その時の行動を移すことができないときもあります。できる限り動けるように努めます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		適切に設定され、具体的な支援内容が設定されていると思います。	職員の中には「家族支援」、「移行支援」などはどういうことなのかを理解していない職員がおります。理解できるように知れる機会を作っていけるように努めます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員同士で相談しながらプログラムを立案しています。他の指導員の担当の子供を支援した場合の引継ぎなどは随時行っています。	チームで行うことはしていません。チームで考える意識は薄れてしまっている子もいます。薄れないようにミーティングなどで頻度を上げて伝えていけるように努めていきます。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	それぞれの子の特性や状況に合わせてプログラムの作成・変更を行っています。それぞれ個々で定着できるように、達成感を味わえるように固定する場合もあります。	状況や様子に合わせて本児に適切だと思った場合、固定して支援を行うことがあります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	必要な子や利用者の状況を見て、可能な限り個別と集団を織り交ぜて支援を行っています。	個別のニーズを求めている方が多く、集団にできないケースもありますが、できる範囲で行えるように検討していきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	支援開始前ではないが、職員が多い時間帯等にミーティングを行っています。	毎日やその日全員が揃わない日もあり、打ち合わせができないときもあります。参加できない職員への共有の仕方も検討していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	ミーティングや日々の会話を通して行っています。隙間時間などに引継ぎなどを行っています。	支援後に時間をとることができない時があり、その日に行うことができないこともあります。その日にできるように検討していきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	写真や文字で記録するようにしています。記録をとり、今後次の改善に繋げています。	職員によって記録を書くスピードや支援の量などで記録の出来が変わることがあります。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	定期的なモニタリングを対面もしくは期限内に来られない方に関してはZOOMなどで対応しています。	モニタリングの経験を児発管以外積めていないです。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	児発管だけでなく担当の指導員が参加できるように教室内で動いています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	保護者からの要望など必要であれば関係機関と連携し情報共有、共通認識を行っています。	関係機関の方々の受け入れによって、協力体制が変わってしまいます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	情報共有や相互理解だけでなく、訪問も必要に応じて行っています。	個別と集団での違いにより理解していただけないことも多くあります。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	保護者の要望に応じて情報共有などを行っています。	保護者から聞かれたときに対応できる職員が少ないです。
	28	(28～30は、センターのみ回答)	○		
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答)	○	案内などがあれば事業所内の周知は行っています。	スーパーバイズとは何なのかわからない職員がいます。受ける機会がありません。意味の共有や、もし受ける機会があれば職員に伝えていきます。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の交流するイベントなどをを行うことはできていません。事業所が交流できる曜日が保育所やこども園の休日のことが多く交流することが難しいです。検討はしていきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	毎回の支援での振り返りで伝えていきます。	振り返りに来れない保護者に対して毎回の支援の様子や日頃の様子を聞けないことがあります。なんとかお話をする機会を確保できるように努めていきます。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	「ママカフェ」など事業所内での意見交換を行っています。	特定の保護者との交流が多いため、他の方が相談に来やすい時間や曜日設定を行う必要があり、検討していきます。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時や質問、必要な時に説明をしています。児発管兼管理者が行っています。	指導員が詳しくは理解できていないため、詳しく説明することができない。説明できるように理解を深められる機会を作っていければと思います。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	振り返りやモニタリングの時にお聞きしています。	家族や子供達の意向が利用年数が長いと職員が汲み取ってしまい、伝えてもらえないことが多くなります。支援の中など色々なところで聞けるように努めていきます。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		支援計画を作成・説明し、双方の認識のズレがないことを確認し同意を得てサインしていただいています。	半年に1回のペースのため、ニーズの変化に対応できていない時があります。こまめに声掛けを行っていただけるように努めています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		ママカフェや利用者の支援中などに適宜対応しています。	保護者からの声掛けで対応することが多く、職員から気づきアクションが起こせるようになる必要があると思います。今後努めていきます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者との交流をママカフェなどを通じて行っています。	交流できる機会が不定期なため随時行えるように基盤を作っていく必要があり、検討していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談があれば児発管と共有し、迅速かつ適切な対応を心掛けて動いています。	職員で対応できる範囲、事業所内で対応できる範囲の基準がなく、どこまで対応するべきなのか悩むことがあります。話し合い基準などを見つけていけるように努めていきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		公式LINEなどを活用し、伝えなければならぬ情報は全体に伝えています。	公式LINEだと送れるメッセージ数に限りがあり、頻繁に伝えられないです。別の方法も検討していきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きロッカーの活用、不要になった書類はシュレッダーなどで破棄しています。同意書もいただいています。	十分な配慮をしているが、防音対策がされていないため職員間での話している内容が他の保護者に伝わっているかもしれないです。可能な限り起きないように努めていきます。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		必要な子には視覚的に伝わるように絵カードを使うや、特性に応じてコミュニケーションがとれるように努めています。	特定の指導員が対応することもあり、できる職員とできない職員がいる状態です。皆ができるように努めていきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域で認知していただくためにどの様にするのがいいのか検討しています。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		契約時の説明や、必要があれば保護者に伝えています。	周知しているが、認識していない保護者が一定の方おられます。全員が認識してもらうように周知したことの確認などを行っていきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		月に一度の防災訓練を実施しております。ビルで行われる避難訓練にも参加しています。	子供達が参加する機会がすくなくです。参加できる機会を作ることを検討します。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		確認や情報共有を見学や体験、契約された後に職員に共有しています。	実際にその境遇になったときに対応できるかは、今まで起きたことないためわからないです。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	食物アレルギーが起きないようにするため食物の提供を行っていないです。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		「どのように行動すればよいか」など実例を交えて話し合いミーティングや研修を行っています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		緊急連絡先の作成や保護者とのどのようにしていくのかの話し合いや周知は行っています。	契約時などに伝え、それ以降聞いていない方もおられるため、忘れての方がいるかもしれないです。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		報告書の作成や事業所内での共有を行っています。	休んでいる職員に対して、報告書での共有のみになってしまい、しっかりと認識できているのか不明瞭なところがあります。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		1年に計画されて研修を全員が受けるように行っています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		個別支援計画の説明のときや契約時に周知は行っています。	どのケースが身体拘束になるのか理解していない職員もいる状況です。しっかりと全体が理解できるように努めていきます。